

# 紫川マイタウンマイリバー整備事業について

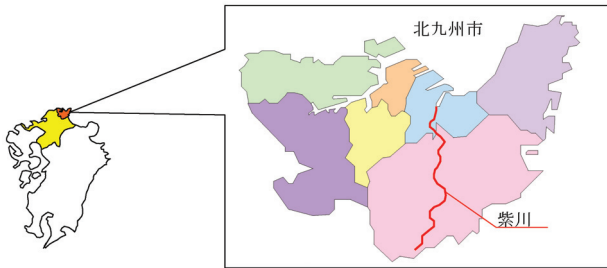
北九州市 建設局 下水道河川部 河川計画係長 船越 英明

## 1. はじめに

北九州市は昭和38年に、隣接する5市の対等合併により誕生した全国で6番目の政令指定都市で今年、市制45周年を迎える。

紫川は、本市の都心である小倉の中心部を流れるシンボル河川であり、アユやシロウオが遡上し、上流ではホタルが舞う清流に甦っているが、かつては、高度経済成長期において、工場排水や生活雑排水で汚染されていた。

紫川が今のような美しい川を取り戻すことが出来たのは、市民・企業・行政が一丸となって浄化活動に取り組んできたからであり、特に平成2年度から推進しているマイタウン・マイリバー整備事業により魅力ある水辺空間が整備されてきたことを契機として、現在では、市民による様々な活動が展開され、紫川周辺は賑わいのある水辺空間として生まれ変わっている。



位置図



紫川マイタウン・マイリバー整備事業

## 2. 昭和28年の大水害

紫川は一見穏やかな川であるが、一度豪雨が襲うと牙を剥くことがある。これまでに最も激しい被害をもたらしたのが、昭和28年の大水害である。6月

の梅雨前線の活発な活動により北九州地区を襲った豪雨は、4日間で約650mmに達する記録的なものであった。

その結果、都心部では紫川が氾濫し、市全体でも死者183名、被災戸数83,000戸、被害総額110億円（現在価格で約600億円）にのぼる大惨事となった。この災害を教訓として、「安全で安心なまち」を創るため、川の拡幅や護岸の整備などの河川整備の必要性が、広く認識されるようになった。



昭和28年北九州大水害

## 3. 紫川マイタウン・マイリバー整備事業

市街化の進展による流域の保水能力の低下や地球温暖化によると想定される局地的な豪雨等に伴う都市水害から市民の生命と財産を守り、安全で安心な暮らしを確保することが必要不可欠である。

紫川は、当時、特に下流部で河川改修が進んでおらず、早期の治水対策が必要であった。また、下水道の整備により河川の水質は飛躍的に改善されたものの、かつて不法建築群が建ち並んでいたこともあり、紫川周辺の建物は、すべて川に背を向けていた。



不法建築群（昭和50年代）

そこで、平成2年に紫川下流域約2kmを中心に両岸の170haの区域で北九州200万都市圏に相応しい新たな都心を創る「紫川マイタウン・マイリバー整備計画」の認定を受け、事業を進めている。

この事業は、河川整備とともに、道路、公園、市街地再開発等の都市基盤整備を行政と民間が一体となって進めるものであり、計画の策定にあたっては、広く市民からアイデアを募集し、洲浜ひろば、人工の滝、河川観察窓を備えた水環境館など、様々なアイデアを具現化するとともに水上ステージや艇庫など、市民が気軽に水辺に親しめるような工夫を随所に凝らし、小倉都心部の紫川周辺に魅力ある空間を創出してきた。



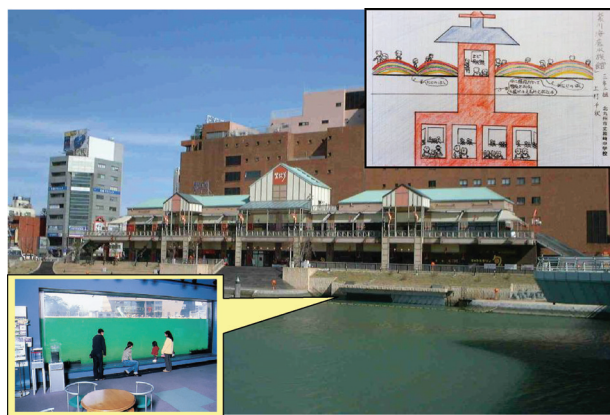
マイプラン紫川（市民公募）最優秀作品



洲浜ひろば



人工の滝



水環境館

### 3. 紫川周辺の賑わいづくり

#### (1) 紫川マイタウンの会の発足

紫川マイタウン・マイリバー整備事業の成果をさらに高めていくため、平成14年4月、紫川マイタウンの会が地元商店街や企業、自治会などを母体として、40人の個人と13の団体の結集により発足した。その活動の目的は、北九州市の中心市街地に位置する紫川周辺の賑わいづくりのための「場」と「機会」の創出であり、紫川周辺の様々な資源の有効活用の研究と具体的な事業活動に官民一体となって取り組み、中心市街地の活性化と賑わいの創出に寄与していくことである。現在の主な活動内容は、以下のとおりである。

#### ① 橋上イベントの開催

紫川に架かっている勝山橋（石の橋）上の公共スペースを活用した飲食やレストスペースの提供

#### ② 水上・河畔イベントの開催

紫川の水面を活用した遊覧船や、水上ステージを活用したコンサート等のイベントの立案、実施

#### ③ 貸しボートの運営

紫川水上の賑わいづくりの一環として、昔懐かしい貸しボートの運営

#### ④ 広報活動

広報チラシの作成、報道各社へのリリース、ホームページの運営など、様々な広報活動の実施

#### ⑤ 各種提言の実施

紫川周辺の空間を活用したイベント企画の立案や、様々な社会実験を踏まえた関連諸施設のプランニングの行政への提言

#### (2) 「遊びにおいでよ紫川！」の開催

紫川マイタウンの会では、「遊びにおいでよ紫川！」のスローガンのもと、発足当初から紫川周辺

で様々なイベントを展開してきた。当初は「勝山橋の上に賑わいを」ということで、歩行者や何も知らずに集まってきた人でも喜んでもらえるように、秋には焼きサンマ、冬には焼きカキを提供するなどのイベント活動が続けてきた。

その活動に弾みがついたのは、平成15年、紫川左岸に複合商業施設「リバーウォーク」が開業し、右岸側の魚町商店街や地場百貨店の井筒屋などの中心商業地域と勝山橋や鷗外橋（水鳥の橋）で結ばれ、歩行者の回遊性が高まってからである。この機会を逃す手は無いということで、紫川マイタウンの会が中心となって、地元の企業や商工会議所、NPOなどに行政も加えた実行委員会を組織し、春夏秋冬、一年を通して四季折々のイベントを繰り出し、多くの人出を集めるようになった。これまで行ってきた代表的なイベント企画は、以下のとおりである。

#### ①勝山橋オープンカフェ・ピアテラス

勝山橋上にパラソルとテーブルを並べ、紫川周辺の景色やイベントを楽しみながら、パエリアやカレー、たこ焼きなどといった定番メニューに加え、地元産のカキの炭火焼、小倉名物の焼きうどんや鍋料理など、四季折々の食材を使ったメニューを提供する。夏場には、心地よい川風に涼みながらビールジョッキを傾けることができる。



#### ②紫川貸しボート

紫川に設けた水上ステージを発着場とし、手漕ぎ、足漕ぎのボートを貸し出している。紫川の流れは緩やかで、手軽にしかも身近に川を感じることができるため、カップルだけではなく子供たちにも人気がある。



ある。

#### ③紫川遊覧屋形船・紫川クルーズ

街なかの雑踏を離れ、リラックスした雰囲気の中で紫川を遊覧し、紫川の水景を川の上から普段とは違った目線で楽しむことができる。屋形船は、春には花見や鶴飼い観覧、夏には船上からの花火観覧、秋にはワイン、冬にはカキ鍋を提供するなど、四季折々の趣向を凝らし、乗船者を楽しませている。



#### ④紫川水上コンサート

水上ステージを活用し、クラシックやジャズ、ロック、ゴスペルなどの音楽コンサートを行い、紫川のほとりに様々な音色を響かせている。



#### ⑤チャイナドレスの似合う人大集合!

かつて陸海交通の要衝として発展し、大陸との玄関になった北九州と中国との縁の深さを活かしたイベントとして、子供からお年寄りまでの幅広い世代の女性が、普段着ることの少ない本場で仕入れた豪華なドレスや手づくりのドレスを身にまとい、あで



やかな姿を披露するコンテストである。

#### ⑥紫川ウォータースケープ（噴水）

春から夏にかけて紫川水面2箇所に噴水を設置し、朝から深夜まで付近一帯に涼しげで爽やかな雰囲気醸し出している。



#### ⑦ファンタスティックイルミネーション

クリスマスシーズンの紫川周辺を数十万個の電飾で彩り、訪れた人の心を思わずホッとあたたかくするロマンチックな光の芸術である。鷗外橋には、約6万個の電球を使った約30mの「光のトンネル」も出現させ、眩い明かりを灯している。



#### ⑧ミニトレイン

動物のオブジェなどで可愛く飾られたミニトレインで紫川河畔を周遊する、小さな子供たちに大人気の企画である。



### 4. おわりに

本市では、「世界の環境首都」の実現に向け、経済的・物質的な豊かさだけではなく、安心、希望、感動、生きがい、優しさ、誇りなど精神的な豊かさを総合した「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐことを基本理念として、市民・企業と行政が一体となって取り組みを進めている。この度、世界の先例となる「低炭素社会」への転換を進め、国際社会を先導していく「環境モデル都市」に横浜市を含めた6都市の一つとして認定を受けたところである。

紫川においても、これまで環境再生を果たす過程で培ってきた経験やノウハウを活かし、市民・企業・行政が一体となって、環境モデル都市にふさわしい「かわまちづくり」に取り組んでまいりたい。

